

みやまの里

(農)東山茶業組合
掛川市東山一八二一―二
第59号 令和5年5月

待ちに待った新茶できました!

新茶の時期「八十八夜」とは聞かれどいつのこと? 八十八夜とは立春から数えて八十八日目の夜で今年は五月二日、「八十八夜に摘んだ新茶を飲むと病気になる」と縁起の良い言い伝えも。新茶は二番茶に比べてカフェインやカテキンが少なくテアニンという旨味成分が豊富でリラックス効果が期待できると言われています。ぜひ新茶を楽しんで下さいね。

川勝県知事を表敬訪問

三月下旬、当組合の杉山敏広工場長が静岡県庁に行つて参りました。昨年、県茶品評会の深蒸し煎茶の部において念願の農林水産大臣賞を受賞し、その報告のため表敬訪問をしました。

当組合だけでなく、県内で昨年全品、関プロ、普通煎茶の部など名誉ある各農林水産大臣賞を受賞された五名の皆さんも同席されました。知事室にはいることはめつたにないことです。緊張の良き日となりました。



三月上旬の授賞式には組合員・女性部も出向き、登壇の組合長、工場長に惜しめない拍手を送りました。これから今回の受賞を励みに良質の東山茶・掛川茶の生産をして参ります。

なお、受賞の祝賀会を開催した際のパンフレットを皆様が注文されたお茶に同梱致します。東山茶業組合は創業二十年ですが、その前身「菱東製茶」から八十年が経ち先人達が茶業発展のために努力を惜しまなかつた懐かしい写真など現在に至る過程が紹介されており、御一読下さい。

一番茶前の互評会

掛川は深蒸し煎茶で全国に誇る産地です。沢山ある荒茶工場はライバルであり、日々切磋琢磨しながら良質の深蒸し茶の製造を競い合っております。一番茶の少し前、昨年製造された荒茶が製造日毎保管されていますので、他工場のお茶も並べ昨年はどうだったのか互評会を行い、その反省点を今年の製造に生かします。製造機械も日進月歩で進化し、製造員の負担は軽減されていますが見て触つて香りを嗅いで、五感が必要なのは今も昔も変わりません。

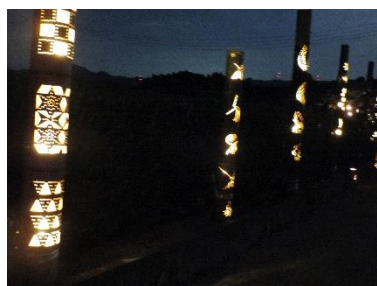


第十四夜 月夜の茶摘み会

満月が灯す月明かりの下で茶摘みをするという神秘的なイベントが市の茶振興課主催・東山茶業組合協賛で行われます。満月の夜なので暦により、今年は五月六日、四年振りにコロナによる制限を設けず開催されます。昨年の参加者は掛川市民に限定されましたが例年県外からも応募が多くあります。摘み取つた茶葉は製茶され、後日参加者に届けられるそうです。こんな風流な催しは茶処「掛川市」ならではです。今年で十四回目です。



2年前の月夜の茶摘み会の様子
(掛川市HPより)



当組合員制作の竹灯籠

スマホ
で



バーコード
決済
できます

当組合でお買い求め頂きました商品の代金はコンビニ・郵便局で払い込みできますが、コンビニ払込票に印字されているバーコードをスマートフォンで読み込み、Pay Pay、LINE pay、Pay B、楽天銀行、ゆうちょPay (銀行Pay) 他、お好きな方法で支払い可能です。但し、払込票は残っているので再度支払わないよう気をつけてください。そして領収書は出ませんので必要な場合はアプリ決済は行わないで下さい。